

科研で考えたいこと

課題（ピンチ）を切り口に！

「獣がいい」を共生と農村再生に昇華させるための中間支援と順応的ガバナンス

特定非営利活動法人  
里地里山問題研究所（さともん）  
代表理事 鈴木克哉



<http://satomon.jp/>  
[info@satomon.jp](mailto:info@satomon.jp)

野生動物と押し合いへし合いしながら暮らしていくために

青岩手県盛岡市におけるツキノワグマ被害対策にみる  
多様な主体間の協働の構築

■山本信次・細田(長坂)真理子

どうすれば環境保全はうまくいくのか

現場から考える

「順応的ガバナンス」の

進め方



宮内泰介 編



「ずらし」と  
「順応」の  
プロセスデザイン

新泉社

環境保全の現場には、  
さまざまなズレが存在している。  
科学と社会の不確実性のなかでは、  
人びとの順応性が効果的に発揮できる  
柔軟なプロセスづくりが求められる。

前作『なぜ環境保全はうまくいかないのか』に続き、  
順応的な環境ガバナンスの進め方を考える。

- 3 地域活性化への「ずらし」と地域での「順応」 147
- 4 おわりに——農山村の環境保全・地域再生への新たな展望 155

「よそ者」と支援

——順応的な寄りそい型の中間支援

「獣がい」を共生と農村再生へ昇華させるプロセスづくり

「獣害対策」から「獣がい」へずらしてつくる地域の未来と中間支援の必要性

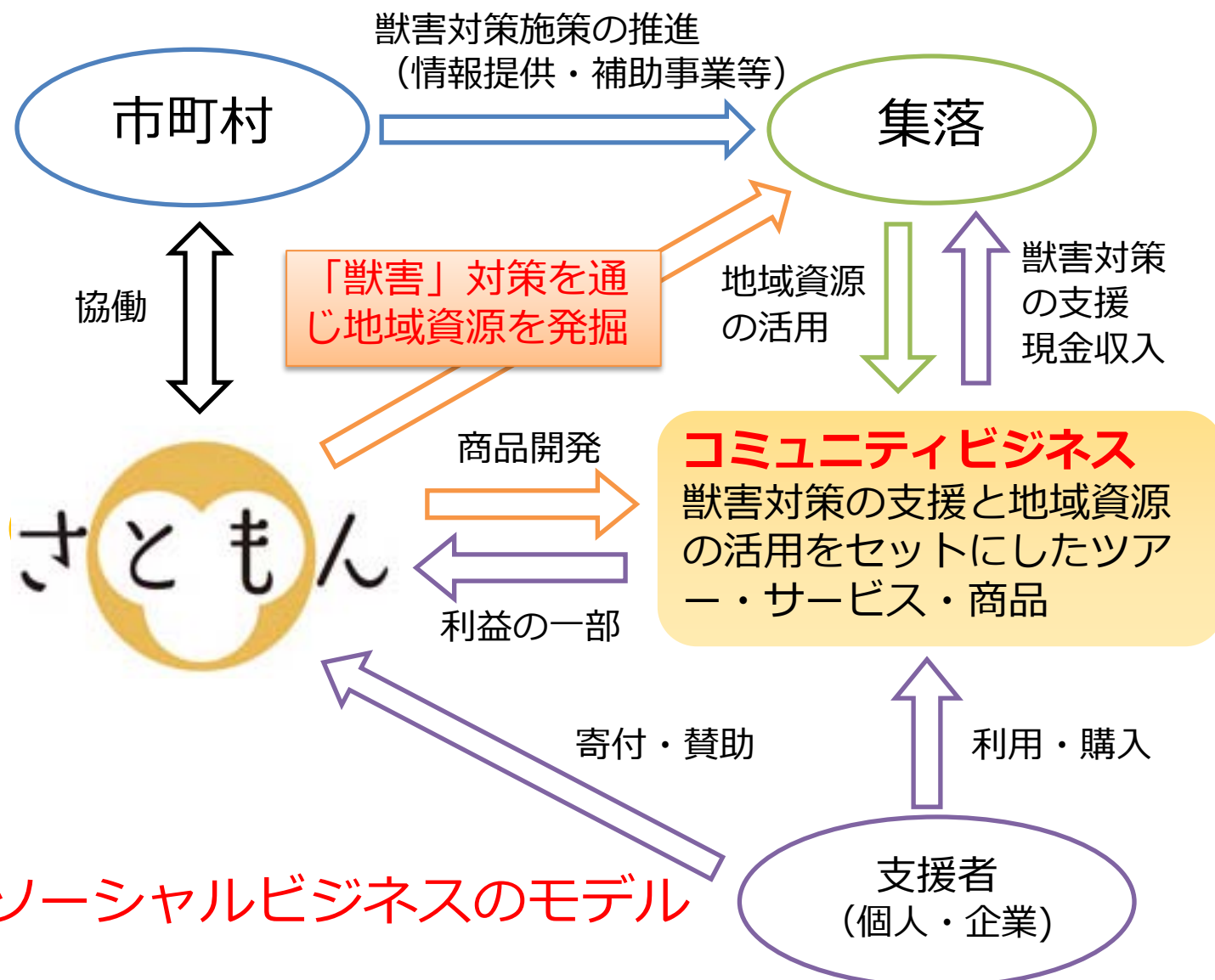
■鈴木克哉 160

- 1 「獣害」が農村の豊かさを消失させる 160
- 2 「獣害」対策からの脱却 164
- 3 「獣害」からのずらしの実践 169
- 4 「獣害」対策から「地域再生」への道筋は可能か？ 176
- 5 中間支援の枠組みづくり——ソーシャル・ビジネスのモデルづくり 181
- 6 おわりに——「獣がい」を資源化し農村の豊かさを守る 186

## 「獣害」 → 「獣がい」 へ

- 「獣害」 = 地域に与える負の影響
  - 農林漁業被害・精神被害・生態系への悪影響
- 「獣がい」
  - 野生動物による「害」を確実な手法で軽減しつつ、「獣」の存在を残しつつ、地域に利益をもたらす人と野生動物の共生の在り方
  - 「獣害」対策を切り口に「守り伝えたい」地域の魅力や姿を可視化し、地域を継承・再生させていく行為につなげる

# 「獣害」対策を「資源化」したコミュニティビジネスを展開していく中間支援組織の必要性



新たなソーシャルビジネスのモデル

2015年5月設立



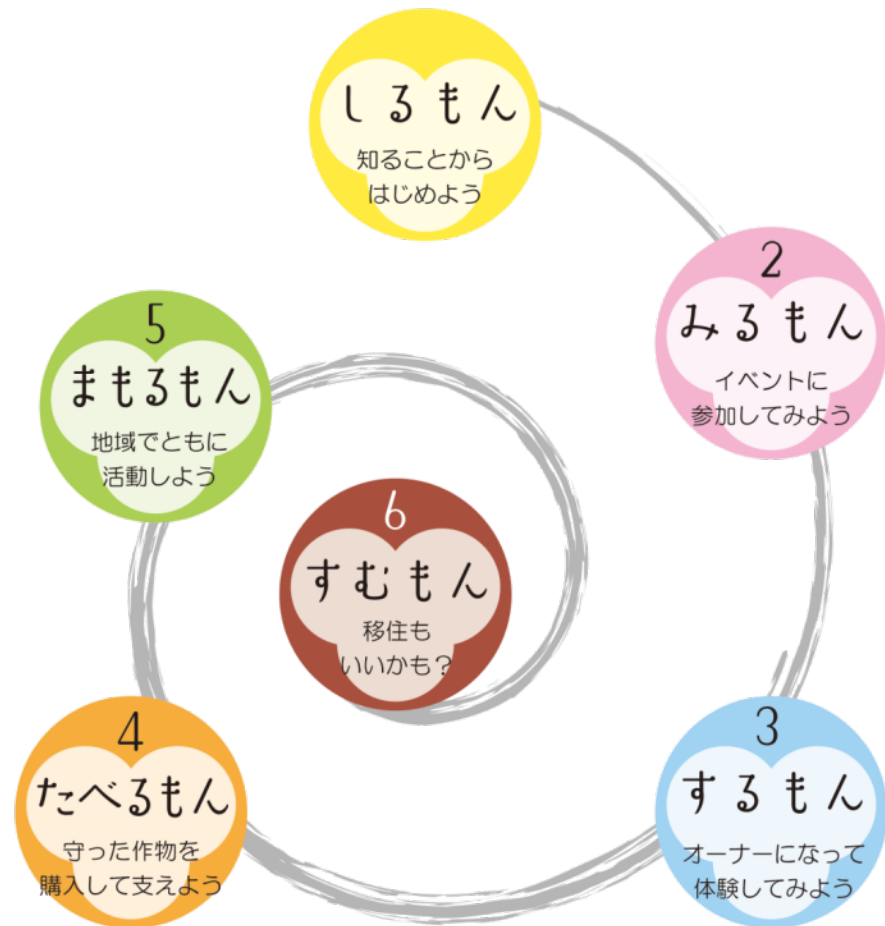
特定非営利活動法人

里地里山問題研究所

<http://satomon.jp/>

兵庫県篠山市を拠点

- ①人口減少・高齢化する農村の獣害対策の支援
- ②都市部から人材を募集し、集落の獣害対策の支援を頑張っている通じて、地域に存在する豊かな「里の恵み（里もん）」をさまざまな人で共に守り、わかちあい、継承するネットワークづくりを行います。



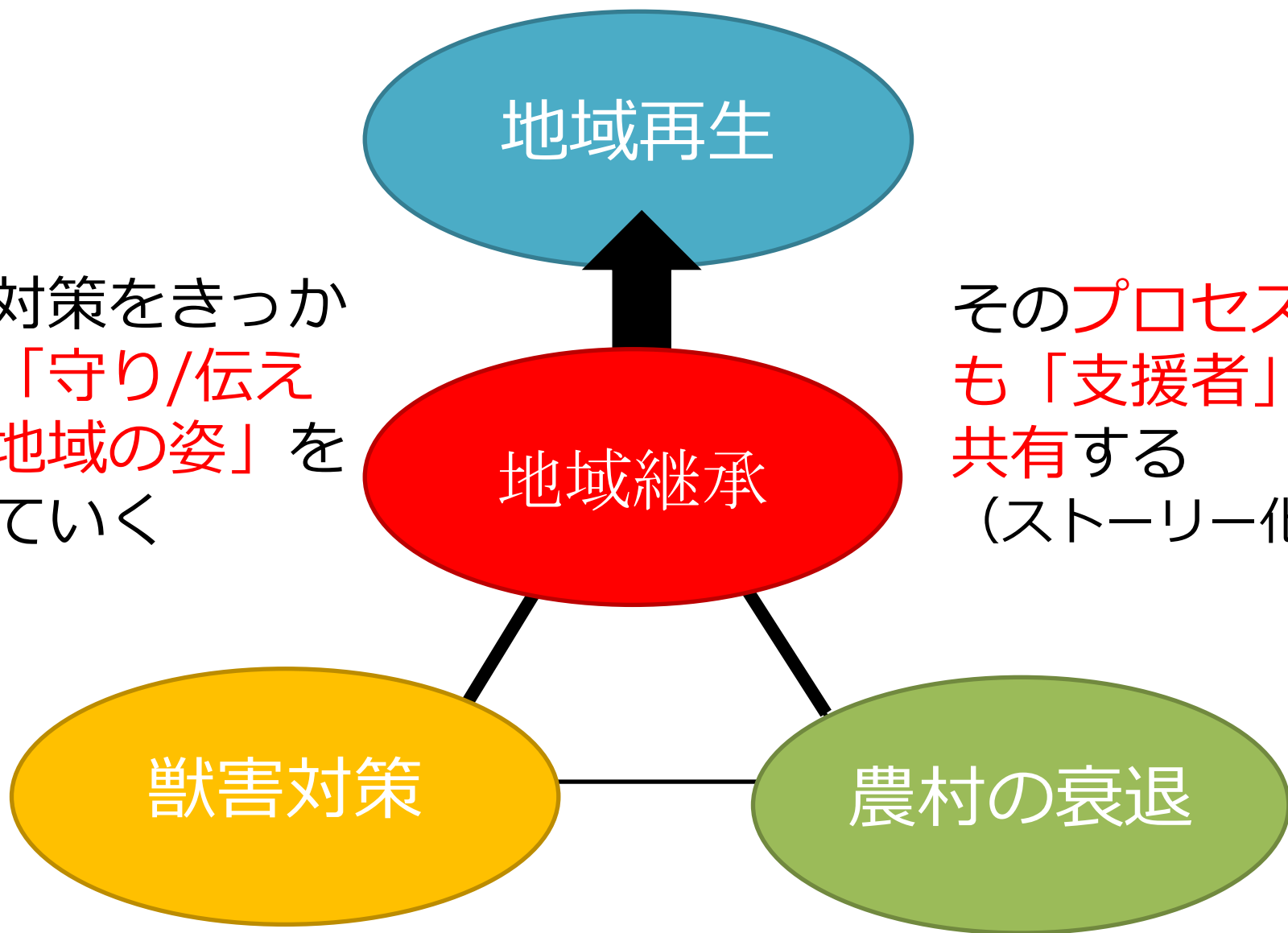
第6章の中で

「獣害」対策から地域再生への道筋

「地域継承」という共有目標へのずらし

獣害対策をきっかけに「**守り/伝えたい地域の姿**」を描いていく

その**プロセス**をも「**支援者**」と共有する  
(ストーリー化)



現在やっていることのひとつ

# ～獣害から地域を守る～ 農村×都市連携プロジェクト～

(革新的技術開発・緊急展開事業)

「ICTを用いた総合的技術による、農と林が連動した持続的獣害対策体系の確立」



時間があってネットがつながれば動画  
(youtube : 7分)を見てください  
<https://youtu.be/CfpRDAzSLts>



# 「地域」に対するプロセスデザイン (「課題 (獣害)」をきっかけに「ずらす」)

獣害対策

地域再生

メリット	多くの人の共有課題・ 緊急性高い・意識高い ストーリー化しやすい	前向き 地域を元気に！
デメリット	被害が軽減→活動縮小？	いきなりは関心が低い？ 閉鎖的などところもある

必要な対策

必要な対策

目標のずらし(地域継承)

地域づくり活動

地域づくり活動

# 「守り/伝えたい地域」の顕在/共有化のために 期待する 3つのツール

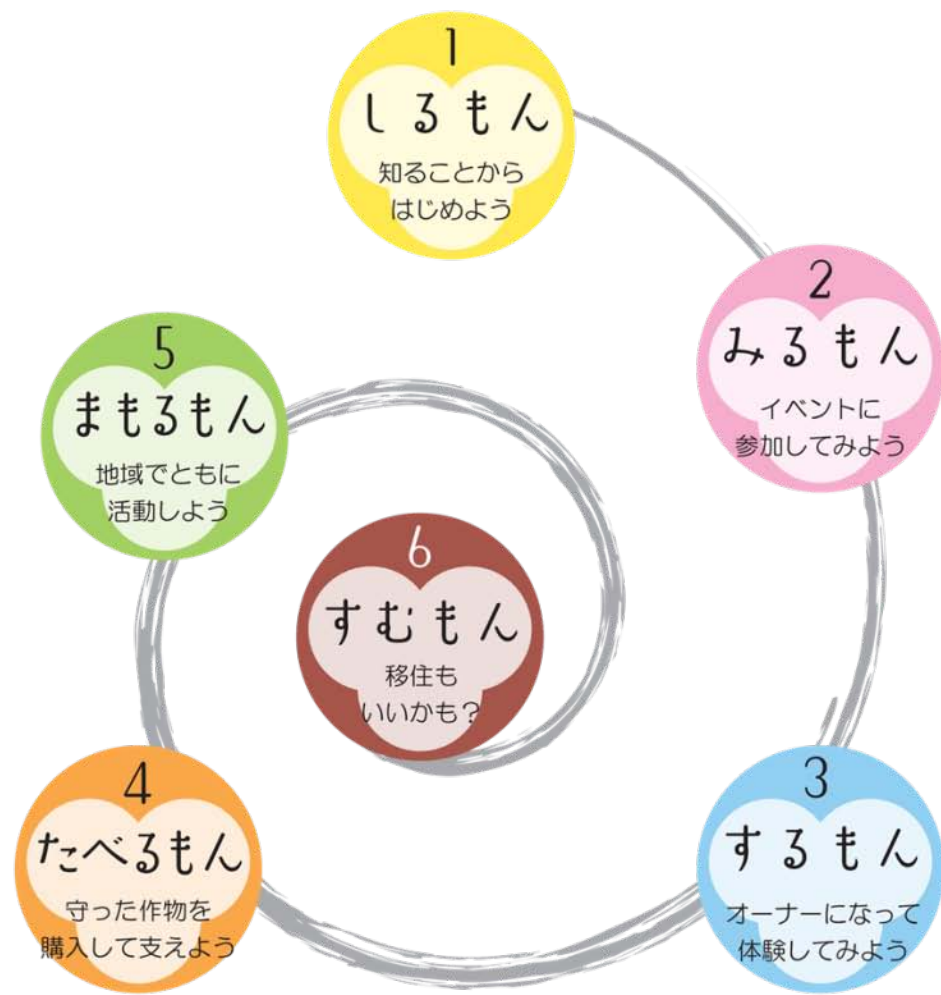
- よそ者の目
- 映像資料（動画・ドローン）
- 聞き書き（期待！）



さともんスタッフ 武中桂

# 多様な「支援者」に対するプロセスデザイン (地域と関係性を深める段階的なかかわりの場を用意)

地域をともに守り、継承する さともんネットワーク



## 【さともん事業例】

### 獣害対策支援イベントの実施

農村ならではのイベントを通して現状を学ぶことが対策の支援になります。



### 里もんオーナー制度

地域の豊かな里の恵み(里もん)を獣害からともに守り、継承していくためのオーナーを募集します。



### 獣害から守った安全安心な農産物販売

野生動物をとりこにしてしまうこの美味しさをぜひ味わってください。

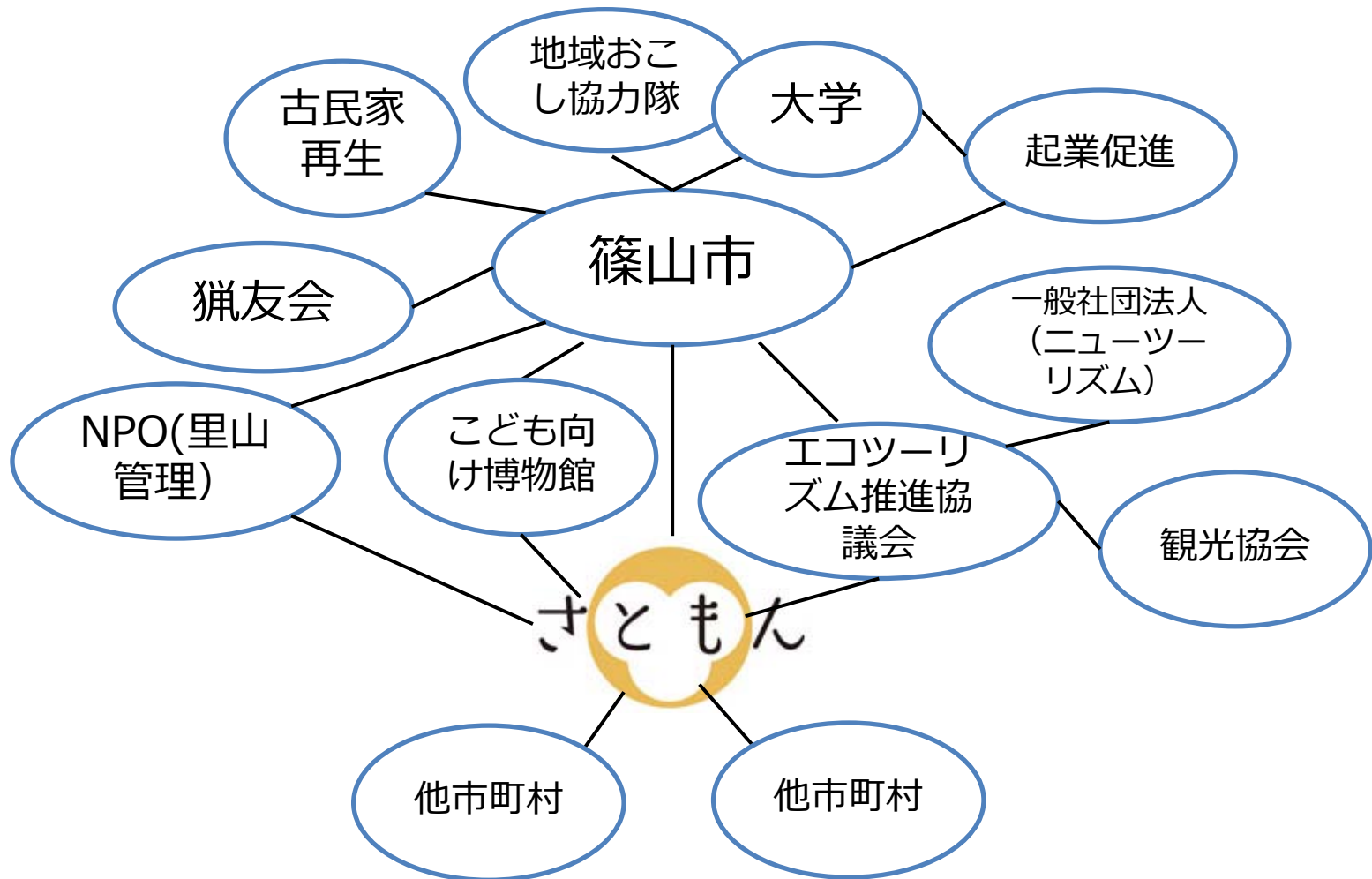


# 今後考えたいこと：多様の主体間の競合？協働？

まちづくり・地域づくりに関わる主体の増加・多様化

自由競争（競合）でよいのか

協働へのしくみ・しかけを目指すとしたら「誰が」「どのように」作るのか？



今後考えたいこと：

順応性ととともに必要な基軸と主な主体の役割・適性

	行政	大学	民間組織(SB)
順応性	△	○？	◎ (そもそも順応的でなければ残れない)
社会性	◎	○？	◎ (SBの場合)
継続性	○	△	◎ (収益と結びつけば)
志向性？	？	？	？ 収益とのバランス

SB (ソーシャルビジネス) の役割は高まり、そもそも民間組織は順応的でなければ存続できない。だからといって、自由に民間にまかせておけばよい という話にもならないだろう (順応性+の基軸)。民間は経営ベース (安定的運営のためにも) の思考があるし、全体の効率性も考える必要がある。

共通の目標設定と達成への志向性 (用語検討) は「誰が」「どのように」担保するか。= 順応的ガバナンス？



# さともん 2017年度から「子育て」支援事業を開始

- 旧こども園の跡地（市内でも住宅地に位置）活用案としてさともんが浮上
- 「子育て」に関係することが条件（国の子育て支援拠点事業を活用できる）
- 経営的な動機
  - 安定した補助金収入（雇用ができる）
  - 活動拠点の確保
- 順応的な動機
  - 篠山の里地里山の魅力を体験・共有できるイベントを通じて、地域の豊かな自然環境、景観や農業、伝統・文化に触れあいながら子育てができる拠点を創出する
  - 市内住宅地における「支援者」の確保
- 目標に対する志向性を失わないよう・・・

ご清聴ありがとうございました  
(いつも参加できずすみません)



特定非営利活動法人

里地里山問題研究所 ( さともん )

<http://satomon.jp/>  
[info@satomon.jp](mailto:info@satomon.jp)

